

委員会のあゆみ

地区指名委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	蜂谷 弘道	(名古屋和合RC)
1999～'00年度	石川 和昌	(豊橋RC)
2000～'01年度	松本 宏	(半田RC)
2001～'02年度	内藤 明人	(名古屋西RC)
2002～'03年度	野村 重彦	(刈谷RC)
2003～'04年度	福田 清成	(江南RC)
2004～'05年度	太田 賢太郎	(岡崎RC)
2005～'06年度	岡部 快圓	(名古屋大須RC)
2006～'07年度	豊島 徳三	(一宮北RC)
2007～'08年度	大島 宏彦	(名古屋RC)

地区研修リーダー//

1998～'99年度	神戸 政治	(あまRC)
1999～'00年度	宮地 信尚	(豊川RC)
2000～'01年度	石川 和昌	(豊橋RC)
2001～'02年度	松本 宏	(半田RC)
2002～'03年度	内藤 明人	(名古屋西RC)
2003～'04年度	野村 重彦	(刈谷RC)
2004～'05年度	福田 清成	(江南RC)
2005～'06年度	太田 賢太郎	(岡崎RC)
2006～'07年度	岡部 快圓	(名古屋大須RC)
2007～'08年度	豊島 徳三	(一宮北RC)

地区研修委員会//

■歴代委員長

2006～'07年度	岡部 快圓	(名古屋大須RC)
2007～'08年度	鈴木 孝則	(あまRC)

■委員会概要

当委員会は、斎藤直美ガバナー年度に創設された。ガバナー補佐全員が委員となり、研修リーダー・岡部快圓パストガバナーが委員長に就任した。

翌江崎柳節ガバナー年度では、研修リーダー・豊島徳三パストガバナー、研修委員長・鈴木孝則ガバナー補佐、そしてガバナー補佐全員で委員会が構成された。

そして片山主水ガバナー年度では、大島宏彦研修リーダー、鈴木孝則研修委員長の布陣とし、ガバナー補佐で委員会を構成することをやめた。委員は、地区情報委員会を廃止するとともに、従来の情報委員を中心に委嘱した。

指導者育成、中堅会員研修、新会員研修を主な業務とする。

■該当期間の主な活動

創設2年の委員会である。

地区情報委員会の協力をいただき、地区大会初日に「地区指導者育成セミナー」および地区協議会にて「新会員研修分科会」を担当した。

ロータリー情報委員会//

■歴代委員長

2006～'07年度	伴 祯夫	(名古屋東南RC)
2007～'08年度	伴 祯夫	(名古屋東南RC)

■委員会概要

2006～'07年、斎藤直美ガバナー年度に、当地区に初めて設立。地区方針「原点回帰」のもと、ロータリー教育の大切さ、「ロータリーを学ぼう」の一環として、各クラブの情報委員会の果たす機能を改革するため、地区リーダーシッププランに

従った新しい教育プログラムの作成を目的として誕生した。

■該当期間の主な活動

初年度は、設立概要から離れて、CLP正式提示に伴い、その細則の採用をめぐって、混亂の中、各クラブに採用を図るべく、CLPの推奨を研修委員会とともに推進した。

それと同時に、地区指導者育成セミナーを地区で初めて開催。このセミナーは、地区研修リーダー

ダ指導のもと、研修委員会との共催で開かれた。設立2年目の本年は、CLPの地区見解のもと、各クラブの活性化のための処策について、指導・相談を受けるとともに、第2回地区指導者

育成セミナーを前年度と同じく、研修委員会と共に催す。

次年度には研修委員会と合併するため、その役目を終える。

地区財務委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	神野 紀郎	(豊橋RC)
1999～'00年度	内田 栄一	(半田RC)
2000～'01年度	片山 主水	(名古屋東南RC)
2001～'02年度	岩間 俊夫	(名古屋西RC)
2002～'03年度	内藤 耕造	(刈谷RC)
2003～'04年度	伊藤 鶴吉	(江南RC)
2004～'05年度	藤井 克己	(岡崎RC)
2005～'06年度	瀧 義孝	(一宮北RC)
2006～'07年度	瀧 義孝	(一宮北RC)
2007～'08年度	安藤 重良	(名古屋RC)

■委員会概要

委員会の性格上、毎年度ほぼ同じ活動をしている。

会員数が減少したとはいえ、5,200名あまりの

会員を擁し、予算規模で一般会計約6,300万円になんなんとする大所帯である。この資金はすべて会員の会費より捻出されている。この資金を裏づけに30あまりの委員会がガバナー方針にのっとり、活発な活動を行っている。

当委員会は、地区の活動が最大限發揮されるよう予算の配分をさせていただいている。もちろんその年度のガバナーの重点事業を最優先することは間違いないが、いかに公平に配分するかが一番のポイントとなる。

また、年度終了後には、決算を行い、問題点を洗い出して次年度へと引き継ぐことも大きな仕事である。

他の委員会と比較して、大変地味な委員会ではあるが、裏方としての重要性を痛切に感じている。

拡大委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	森岡 秀夫	(知多RC)
1999～'00年度	加藤 正男	(岡崎南RC)
2000～'01年度	加藤 正男	(岡崎南RC)
2001～'02年度	加藤 正男	(岡崎南RC)
2002～'03年度	野崎 洋二	(名古屋瑞穂RC)
2003～'04年度	野崎 洋二	(名古屋瑞穂RC)
2004～'05年度	浦野 三男	(名古屋北RC)
2005～'06年度	杉浦 壽康	(岡崎RC)
2006～'07年度	杉浦 壽康	(岡崎RC)
2007～'08年度	松尾 隆徳	(春日井RC)

■委員会概要

地区ガバナーは新クラブを結成する責務を担うことになっている。地区拡大委員会は、地区ガバナー方針に基づき、地区内におけるクラブ新設の気運醸成を図りながら、既存クラブの会長に拡大の必要性をPRし、拡大意向のあるクラブに積極的に協力し結成に向かう。

■該当期間の主な活動

各年次の拡大委員長および拡大委員の努力とガバナーの指導のもとで、地味ながらも直実に拡大努力がなされ下記の如き実績となった。

2000年1月	三河安城RC (スポンサー: 安城RC)
2000年3月	豊田中RC (スポンサー: 豊田東RC)
2002年6月	愛知長久手RC (スポンサー: 瀬戸RC)
2003年4月	大府RC (スポンサー: 東知多RC)
2005年6月	名古屋葵RC (スポンサー: 名古屋北RC)

しかしながら、バブル崩壊後の経済環境は厳しく、クラブ会員数の減少が各クラブで発生し、拠点拡大への勢力が注ぎづらくなった。

また、県下では地域的にはほぼ限なくRCが開設されており、同一地域内のクラブの新設という方向が主力となりつつあり、勢力の分散とも考えられるがちとなり、クラブを新設しづらい状況下になった。(特に2007年度辺りから)

ロータリー未来委員会//

■初代委員長

2007～'08年度 杉浦 壽康（岡崎RC）

■委員会概要

本委員会は、2007～'08（江崎柳節ガバナー）年度に設置された新しい委員会である。世界の変革に合わせ、ロータリーも当然進化することが予想される。その過程において起こつくる諸問題に迅速かつ的確に対応ができるようにその方策を立て、地区内各クラブの諸問題解決を支援することを使命としている。初年度の委員会構成はカウンセラーに2人のパストガバナー、委員にはガバナー、ガバナーエレクト、地区情報委員長、地区

四大奉仕部門と新世代およびロータリー財団各委員会副委員長である。

■該当期間の主な活動

初年度は各クラブとロータリアンを対象に、「ロータリーに関する意識と活動の現状」についてアンケート調査を実施のためアンケートの設問項目について10回にわたり検討を重ねた。クラブへのアンケートは2008年5月15日～6月15日に行った。回収されたアンケートの統計処理、解析、評価を次年度行う。個人へのアンケートは次年度早々に行い、統計処理、解析、評価をする予定である。

クラブ奉仕委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	石川 孝司	（豊橋RC）
1999～'00年度	伴野 富三	（小牧RC）
2000～'01年度	榎原 義嗣	（碧南RC）
2001～'02年度	早川 八郎	（春日井RC）
2002～'03年度	片山 主水	（名古屋東南RC）
2003～'04年度	片山 主水	（名古屋東南RC）
2004～'05年度	江崎 柳節	（小牧RC）
2005～'06年度	江崎 柳節	（小牧RC）
2006～'07年度	岡本 伊三雄	（名古屋守山RC）
2007～'08年度	岡本 伊三雄	（名古屋守山RC）

■該当期間の主な活動

2002～'03年度

会員増強、退会防止に重点を置いて、入会金、会費、ニコボックス、卓話などの情報を収集・公開し、調整を試みた。入会式や、追悼例会を奨励し広める。

2003～'04年度

R I の要請により、地区ロータリーファミリー委員会の設置および各クラブへの設置を要請。

クラブ奉仕は、魅力あふれるロータリークラブの創設、魅力あふれるロータリアンの育成を目的とし、親睦活動を中間手段として交えながら、内に向かってクラブの運営管理に当たる。

2004～'05年度

クラブ奉仕がロータリーを変える。アンケートの実施と公開。ロータリーファミリー委員会。

①委員長の統括すべき委員会の確認

②職業上の時間的デメリットを超える魅力あふれる例会の運営

③魅力あふれる会員の育成

④会員世代間の相互理解、親和の構築

⑤愛・地球博の共有

⑥クラブで「100年」を祝おう

⑦クラブ内での、ITの享受

以上の活動方針を地区大会でパネル展示。

2005～'06年度

前年度方針をすべて継続し、さらに例年ない、近隣にない、新しい有意義な挑戦「ONE DIFFERENT」。「ロータリーの源流」主催者、田中毅PGの基調講演「二つの奉仕理念」。各クラブに、CLPの理解と推進を奨める。活動方針を地区大会でパネル展示。

2006～'07年度

片山、江崎、両委員長の活動方針を継承する。地区クラブ奉仕委員長会議のテーマは、「クラブ奉仕があなたのクラブを活性化します」。前年に続き田中毅PGによる基調講演「ロータリーを考える」。

2007～'08年度

活動方針は前年度の継続。地区クラブ奉仕委員長会議を豊橋で行い、基調講演をなくして、アンケートに基づいたテーブルディスカッションを行った。

会員増強委員会

■歴代委員長

- 1998~'99年度 石川八郎右衛門(碧南RC)
 1999~'00年度 小川 辰男(名古屋名東RC)
 2000~'01年度 小川 辰男(名古屋名東RC)
 2001~'02年度 安藤 公爾(尾張旭RC)
 2002~'03年度 光岡 朗(あまRC)
 2003~'04年度 光岡 朗(あまRC)
 2004~'05年度 細田 周一(新城RC)
 2005~'06年度 菊岡 深智子(名古屋名南RC)
 2006~'07年度 菊岡 深智子(名古屋名南RC)
 2007~'08年度 菊岡 深智子(名古屋名南RC)

■会員増強委員会のモットー

- 一、あなたの心と手で、ロータリー活動の輪を拡げよう!!
 一、会員数は、各委員会活動の原動力となり奉仕活動の基盤となる……!!

■該当期間の主な活動

私は、名古屋名南ロータリークラブ在籍17年、各委員会委員、副委員長、委員長としての役割を5年間務めてきた。そんな経緯と経験の中から、「ロータリー活動とは……何ぞや!! 会員増強委員会とは……何ぞや!!」私が見た、経験したロータリーの偶像を二拍一礼して、ご伝授しよう。

まず、私の感動は、ロータリークラブの活動が、100年続いて101年目に継続されている継続の実績である。一口に100年と言うが…世の中の変革は、我々地球人が月への憧れから宇宙への探索をする時代になってきた。現代は、華々しく、変わっている。世界中のロータリー会員が、同じ思いで、世のため人のための奉仕活動を続けている行為、世界平和を願っている約120万人のロータリー会員の輝かしい姿である。奉仕活動にも、いろいろ数多くの団体・組織はあるが、ロータリークラブの特徴は、社会の中で社会人としての企業家として、それそれが立派に活躍していることである。その労力と知恵が奉仕活動の原動力を生み出し、世界平和への輪を拡げている。自分たちの住んでいる地域をエリアとしていくつかの委員会、部会に、会員全員が所属し、円滑に行動し活躍をしている。国外への支援も課題の1つである。例えば、今回の中国の大地震への見舞金であるとか…、恵まれない国の子どもたちへの支援であるとか…世界中への支援に参画してい

る。このような状況に対し、よくロータリーは、体を使わなくて金で済まそうとすると厳しい批判も聞こえてくるが…我々中小企業は、自分の事業の中での位置、役割も重要であるため、自分の会社の器に合う協力をしていくことが大切だと私は考えている。これがロータリーの奉仕の精神、理念であり、100年も継続して来た要の団体であると私は、理解している。

さて会員増強委員会の役割は何をする委員会なのだろうか…? 単純に会員を増員すれば良いのだろうか…? 違うのである。ロータリーの有資格者は100年のあゆみ、100年の重みを良く理解して、奉仕活動に協力できる人格者であること…その中で自分の能力と長所を100%發揮し、協力することの理解、行動することの理解、自分の行為を具象化でき得る、環境形成に協力していく心得…などなどを持ち合わせている存在位置…ロータリーのバッジを胸に付けている限りそれぞれ個々に誇り輝くことを祈り、日々研鑽する姿勢が大切である。それに合わせて、次世代の若き人々に、ロータリー精神の真髄を理解させていく、環境づくりの育成も重要なしていく。

●2760地区、江崎柳節ガバナーのもと、日本一を誇る会員数となる

第1位 2760地区

2007年7月末~'08年1月末日 5,158名

第2位 2650地区

2007年7月末~'08年1月末日 5,155名

2006年7月1日 5,149名(女性129名)

2007年7月1日 5,071名(女性142名)

2008年4月末日 5,141名(女性149名)

●事業内容

第1回 2007年5月15日(火)

ガバナー事務所分室 地区委員顔合わせ

第2回 2007年6月12日(火)

ガバナー事務所分室 地区全体各クラブ
委員長会打ち合せ

第3回 2007年7月10日(火)

ガバナー事務所分室 地区全体委員会議
役割分担打ち合せ

第4回 2007年7月23日(月)

名鉄グランドホテル 地区内会員増強委員
長全体会議

第5回 2007年9月12日(水)
名鉄グランドホテル 地区内会員増強委員
長会反省会

第6回 2008年1月23日(水)
名鉄グランドホテル 新年懇談会
※2760地区内7月～9月にかけて、12カ所の希
望クラブ卓話要請に応ずる。(会員増強について)

■広報委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	長尾 喜久男	(名古屋西RC)
1999～'00年度	長尾 喜久男	(名古屋西RC)
2000～'01年度	種村 桂介	(名古屋栄RC)
2001～'02年度	種村 桂介	(名古屋栄RC)
2002～'03年度	塚本 肇男	(稻沢RC)
2003～'04年度	塚本 肇男	(稻沢RC)
2004～'05年度	石垣 昭快	(岡崎RC)
2005～'06年度	大島 寅夫	(名古屋RC)
2006～'07年度	青木 勇作	(岡崎RC)
2007～'08年度	青木 勇作	(岡崎RC)

■委員会概要

この2年間、委員長以下のメンバーはほとんど変わりなく、斎藤・江崎両ガバナーの「広報を強くしよう」のご意向のもと、有能な委員の皆様と力を合わせて活動を展開して來た。委員会も委員長会議もこまめに取り組んだ。

■該当期間の主な活動

1998年度から2008年度までの「地区便覧」を11冊並べて見ると、当地区における広報委員会の動きが、かなり客観的に分かる。最初の年度には、ロータリーの友委員会が別にあった。その次の年度は、ロータリーの友地区委員も広報委員の一員であった。そして2001年度からは、現在の形に地区委員を独立させた。

この間、毎年広報委員は3～4人だった。年間の予定表では、委員会が年2回、広報・雑誌委員長会議が1回で、あまり活発とは見受けられない。また、委員長はじめマスコミ関係のお仕事の方が多いのが目に付く。

この2年間は比較的素人のメンバーで構成し、委員会は年間6～8回、広報・雑誌委員長会議は9月と2月に2回開催し、各クラブでの広報に関する意識の高揚をささやかながらお手伝いしている。成果は、まだまだだが…。

■ロータリーファミリー委員会

■歴代委員長

2003～'04年度	井上 穂	(豊橋ゴールデンRC)
2004～'05年度	大矢 裕慈	(名古屋中RC)
2005～'06年度	大矢 裕慈	(名古屋中RC)
2006～'07年度	大矢 裕慈	(名古屋中RC)
2007～'08年度	高井 克憲	(名古屋栄RC)

■委員会概要

2003～'04年度のマジアベR Iパスト会長がロータリーファミリーを提唱し、同年よりR Iは12月をロータリーファミリー月間に指定した。本委員会は、ロータリー活動を配偶者や家族と一緒に行動し、また他の多くのロータリーファミリーと奉仕の喜びを分かち合うためにある。

■該当期間の主な活動

2003～'04年度の井上穂初代委員長は、グループ・ゾーン3の亀岡コーディネーターからアドバイスを受け、ロータリーファミリー委員会を立ち上げられ、家族に対する思いやり、感謝するプログラムに対し、地区内で統一した見解を示された。さらに、年2回のアンケート調査を行い、各クラブの状況と内容を委員長会議に報告された。2004年度から2007年度の3年間を務めた大矢裕慈委員長は、「ロータリー活動をロータリーファミリーと一緒に行動し、奉仕の喜びを分かち合うことが大切であり、そのことが退会防止や新会員の勧誘に大変役立つと思う」とのスローガンを掲げ各クラブにロータリーファミリー委員会の新設を呼びかけられた。2007～'08年の委員長である高井克憲は、率先してロータリーファミリーのロータリー活動への理解と参加を勧め、家族月間を支援するプログラムの実施を訴えた。

職業奉仕委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	杉原 彦三郎（豊川RC）
1999～'00年度	石川 八郎右衛門（碧南RC）
2000～'01年度	田中 清隆（あまRC）
2001～'02年度	関口 宗男（名古屋みなとRC）
2002～'03年度	関口 宗男（名古屋みなとRC）
2003～'04年度	関口 宗男（名古屋みなとRC）
2004～'05年度	太田 達夫（名古屋城北RC）
2005～'06年度	場々 大刀雄（春日井RC）
2006～'07年度	成田 洋之（名古屋みなとRC）
2007～'08年度	成田 洋之（名古屋みなとRC）

■委員会概要

職業奉仕とは、ロータリアン各人が自己の職業をもって社会に個人的に奉仕することである。目標は自らの事業と業界の職業倫理を高揚させることである。職業奉仕はロータリークラブとクラブ会員双方の責務において行われる。その行動指針は「四つのテスト」である。

職業奉仕理念はシェルドンが提唱し、ロータリー運動の原点、ロータリーのすべての奉仕活動の根幹・基盤になっており「万古不易」である。

委員会の役割はその理念と実践の啓蒙である。

■該当期間の主な活動

1998～'99年度

地区協議会「職業奉仕の質を高めるには」。委員長会議講演「職業奉仕の理念と実践」関口宗男氏。8分区の奉仕活動の発表。職業奉仕月間、職業奉仕の理解と研鑽。

1999～'00年度

地区協議会「職業奉仕とは何ぞや」「クラブの職業奉仕」。委員長会議、アンケートを主に全体会議。「四つのテスト」の真意、職業宣言、職業奉仕中心のRC運営。職業奉仕月間フォーラム。『職業奉仕のないロータリーなんて』編纂。

2000～'01年度

地区協議会「職業奉仕について」。委員長会議講演「四つのテスト」。地区大会でロータリーミーティング「職業奉仕—職業は人の幸せのためにあるのか—」。職業奉仕月間、職場例会、レクチャー。『地区職業奉仕委員会記録'99～'01』編纂。

2001～'02年度

年度目標として職業奉仕の理念と実践の啓蒙活動を徹底。地区協議会「ロータリーの職業奉仕

とは」。11項目の事例に基づく行動を提唱。委員長会議講演「職業奉仕の理解と実践」深川純一氏(PDG)。職業奉仕月間、卓話。『講演録』『職業奉仕委員会の任務についての解説』編纂。

2002～'03年度

地区協議会「ロータリーの職業奉仕とは」。委員長会議講演「渾沌一活力再生の道」佐藤千壽氏(PDG)。職業奉仕月間、卓話。関口宗男著『ロータリー職業奉仕を理解するために』発刊。

2003～'04年度

地区協議会「ロータリーの職業奉仕とは」。委員長会議講演「職業奉仕の重要性と未来展望」田中毅(PDG)と分区フォーラム。『講演録』『職業奉仕事例集』編纂。

2004～'05年度

地区協議会「職業奉仕の理念と委員会の任務の理解の徹底」。委員長会議講演「職業奉仕の実践例」土屋亮平氏(PDG)。職業奉仕月間、卓話、上野孝氏(PDG)作「Q & A、職業奉仕5つの疑問」のビデオ。『各ロータリアンの社是・社訓集』編纂。

2005～'06年度

年度目標は、分かりやすい職業奉仕、奉仕活動は倫理運動、陰徳。地区協議会「職業奉仕について」。委員長会議講演「ロータリー職業奉仕を理解するために」関口宗男氏。職業奉仕月間、職業奉仕をフロー図により解析。『前年度講演録』編纂。

2006～'07年度

年度目標は、万古不易である職業奉仕理念と実践の啓蒙。地区協議会「職業奉仕とその変遷」。委員長会議講演「ロータリー第三の波」佐藤千壽氏(PDG)とフォーラム「21世紀の職業奉仕」。職業奉仕月間、卓話。佐藤千壽著『道徳と資本』発刊。

2007～'08年度

「職業奉仕はロータリーのステータス」。地区協議会「職業奉仕とその変遷」。委員長会議講演「ロータリー職業奉仕の理念について」関口宗男氏とフォーラム「職業奉仕におけるOne Differenceとは」。関口宗男・成田洋之共著『ロータリーの軌跡と目的』発刊。

社会奉仕委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	花井 文雄 (東知多RC)
1999～'00年度	花井 文雄 (東知多RC)
2000～'01年度	千田 肇 (名古屋東山RC)
2001～'02年度	山田 静夫 (名古屋守山RC)
2002～'03年度	園原 宏治 (岩倉RC)
2003～'04年度	大野 義彦 (岩倉RC)
2004～'05年度	石田 弘幸 (小牧RC)
2005～'06年度	伊藤 秀雄 (名古屋東南RC)
2006～'07年度	伊藤 秀雄 (名古屋東南RC)
2007～'08年度	伊藤 秀雄 (名古屋東南RC)

■委員会概要

社会奉仕委員会は、地域における社会奉仕活動の中で、その時代時代にマッチして、本当に世のため人のため、すべての人々に住み良い社会作りのためにあらゆる角度からお手伝いをさせていただくことを旨としている。特に弱い方々に対して

幅広くフェアな奉仕活動ができれば誠に嬉しい限りである。

■該当期間の主な活動

社会奉仕委員会のこの3年間を振り返ると、最終年度の江崎ガバナーには多岐にわたりご指導・ご協力を賜り、計画の「AED地区内普及」について有終の美を飾ることができた。

当年度は「AEDを設置する」から、「誰もが使えるAEDの普及」を目指してきた。

地区内、81RCにおいては、各ガバナー補佐のご指導のもと、AEDトレーナー機での勉強会を済ましたクラブも多いと聞いている。

また、おかげさまでロータリアン各位の積極的なご協力により、この3年間で地区内に現在600台ものAEDが設置され、数年後には数千台にまで大きな輪が広がる様相を呈している。

RCC 委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	川井 健司 (名古屋守山RC)
1999～'00年度	川井 健司 (名古屋守山RC)
2000～'01年度	前田 捷彦 (半田RC)
2001～'02年度	永田 和氏 (岡崎東RC)
2002～'03年度	川井 健司 (名古屋守山RC)
2003～'04年度	川井 健司 (名古屋守山RC)
2004～'05年度	宮田 正人 (豊橋RC)
2005～'06年度	加藤 真治 (刈谷RC)
2006～'07年度	加藤 真治 (刈谷RC)
2007～'08年度	縣 政行 (豊橋RC)

■委員会概要

RCCは、1989年にRIの公式プログラムに採用され、各地域で活動を繰り広げている、地域に密着した社会奉仕活動の中での典型的なプログラムの1つである。当委員会は、新しくRCC活動を提唱するクラブに対しての助言かつ支援、さらには周知活動を行っている。

■該当期間の主な活動

現在、地区内で活動中のRCC隊は11隊あり、1998年以降で設立されたRCC提唱クラブは、名古屋中RC (終結)・半田RC・岡崎東RC・刈谷RC (終結)・半田南RC・豊田西RCの6隊である。おもな委員会活動として、

1. RCCガイドブックの作成

2003年5月、当地区RCC委員会 (川井健司委員長:名古屋守山RC) により、「RCCガイドブック」が刊行された。RCCの解説から、その歴史、組織と運営、事例集が網羅され、RCCプログラムを理解する上で大変参考になり、また、ロータリー情報の有力な資料にもなっている。

2. RCC交流会議

隔年で開催する交流会議では、地区内のロータリークラブの各代表者と、地区内RCC隊員の皆様が一堂に会し、情報交換、親睦交流を行い、RCC隊員の皆様を激励している。引き続き行われる懇親会では、意見交換などで交流を図っている。

3. ガバナー事務所ホームページ作成

2006年 (加藤真治委員長:刈谷RC) より、ガバナー事務所ホームページにRCC活動についての事例・解説を掲載中。



隊員による活動報告 (第7回交流会議)

環境保全委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	杉浦 恵造	(岡崎RC)
1999～'00年度	鈴木 孝則	(あまRC)
2000～'01年度	國分 孝雄	(名古屋和合RC)
2001～'02年度	國分 孝雄	(名古屋和合RC)
2002～'03年度	國分 孝雄	(名古屋和合RC)
2003～'04年度	國分 孝雄	(名古屋和合RC)
2004～'05年度	國分 孝雄	(名古屋和合RC)
2005～'06年度	長瀬 諭	(名古屋栄RC)
2006～'07年度	長瀬 諭	(名古屋栄RC)
2007～'08年度	長瀬 諭	(名古屋栄RC)

■委員会概要

21世紀は環境の世紀といわれ、人々の環境に対する認識が高まってきた。

現状は、地球温暖化、食料、水質保全、エネルギーなど、さまざまな問題を抱えている。

2760地区のロータリークラブにおいては、社会奉仕委員会より分離独立して、10年強が経過した。地区内81RCの環境活動も活性化ってきており、今後の当委員会としての役割は、さまざまな情報を提供し、各クラブの環境保全活動の推進に貢献することにある。

■該当期間の主な活動

テーマ

情報の提供／共有と現場確認など、啓蒙活動による各クラブの後方支援を重点とした。

主な実施事業

- ・毎年2回の環境保全委員長会議で講演会^{*1}と見学会^{*2}を実施。
- ・愛知県名古屋市の「環境づくり推進協議会」に毎年参加、協力。
- ・「環境絵てがみ」コンテスト実施。
- ・環境保全週間（5月30日～6月5日）の設定。

*1) 「ロハスとスローライフ」 オークビレッジ代表 稲本正氏
「たかが黄砂されど黄砂」 金沢大学教授 岩佐泰信氏
「都市の環境を考える」名古屋産業大学名脇教授 伊藤達雄氏
「環境の世紀 日本の世紀」元環境大臣 小池百合子氏

*2) ・企業の環境に対する取り組みとして、(株)デンソーや、愛知県境川浄化センター、中部電力碧南火力発電所
・環境に優しい農業の見学として、NGO オイスカ

今後の活動のテーマ

1. 脱地球温暖化に向けた取り組み
2. 資源循環（3R）の情報提供
3. 自然との共生（生物多様性の保全／水質保全／森林の里山の保全）COP10

国際奉仕委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	木本 精之助	(名古屋RC)
1999～'00年度	木本 精之助	(名古屋RC)
2000～'01年度	中野 博三	(豊橋南RC)
2001～'02年度	守野 暢洋	(名古屋清須RC)
2002～'03年度	須賀 康夫	(名古屋名東RC)
2003～'04年度	神田 憲	(名古屋大須RC)
2004～'05年度	吉野 勝己	(豊橋南RC)
2005～'06年度	大谷 和雄	(名古屋千種RC)
2006～'07年度	安井 隆豊	(名古屋和合RC)
2007～'08年度	鈴木 吉男	(津島RC)

■委員会概要

国際奉仕の基本方針は、「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善を推進する」「自由、正義、真実、宣誓の神聖、人間尊重はロータリーの原則に本来備わっており、国際平和と秩序の維持および人類の発展に不可欠である」である。

①世界社会奉仕活動、②国際レベルの教育および文化交流活動、③特別月間と催し、④国際的会合などの活動をしている。

■該当期間の主な活動

世界各地で何百万人もの子どもたちが安全な水、充分な食料、満足のいく衛生状態、基本的な教育を受けられない状況にある。貧困や世界19カ国での武力紛争、年間300万人が死亡しているHIV／エイズ、100万人が死亡しているマラリアのような病気は、子どもたちの将来と安全を脅かしている。

2005年RI理事会は青少年に関する次のような声明を出している。「国際ロータリーはロータリーの活動に参加する人々のために最も安全な環境をつくり、維持するよう最善を尽くす」

1956年にロータリー財団ができ、その補助金

を利用し、1978年には3H補助金が創設され、1985年にはロータリーの名声を高めた最大のプログラムであるボリオ・プラスが始まった。第

2760地区国際奉仕委員会は、ロータリー財団と協力し、奉仕活動を推進している。

■青少年交換委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	神田 憲	(名古屋大須RC)
1999～'00年度	神田 憲	(名古屋大須RC)
2000～'01年度	大谷 和雄	(名古屋千種RC)
2001～'02年度	大谷 和雄	(名古屋千種RC)
2002～'03年度	大谷 和雄	(名古屋千種RC)
2003～'04年度	大谷 和雄	(名古屋千種RC)
2004～'05年度	鈴木 吉男	(津島RC)
2005～'06年度	鈴木 吉男	(津島RC)
2006～'07年度	黒田 勝基	(高浜RC)
2007～'08年度	安藤 隆利	(名古屋名駅RC)

■委員会概要

当委員会は世界各地の国々と高校生の交換を行っている委員会である。現在までに交換を行った国は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、タイ、台湾、韓国、ブラジル、フランス、ドイツ、スイス、フィンランドなどである。その目的は語学などの勉学ではなく、派遣先の文化や風俗を体験し、また日本を紹介し、一層の相互理解を深めるロータリーの国際親善大使となるものである。

■該当期間の主な活動

当初はオーストラリア、北米の英語圏との交換が主たるものだったが、多くの先人の努力により、また世界大会前2日間にわたり行われる青少年交換役員会議での世界中の交換委員との交流などにより、この10年で交換先も徐々に増え、現在では10カ国以上との交換を行うようになった。ただ、すべてが順調に推移してきたわけではなく、大阪での世界大会の際、オーストラリアの元女子交換学生からセクシャルハラスメントの問題が指摘され、慌てたRIは訴訟問題回避のため、交換条件に厳しい規約を課すようになった。しかしながら国民性の違いなどもあり、RIの要望を無条件に日本が受け入れられるものではなく、日本中の地区が一丸となって専門委員会を設け、3年間にわたりRIと交渉を続けてきた。その結果、本年2月になり、ようやく改めてRIより青少年交換プログラムの認定を受けることができた。これがなければ、RIは青少年交換活動を一切認めないといたものである。

■世界社会奉仕委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	岡田 邦弘	(岡崎南RC)
1999～'00年度	岡田 邦弘	(岡崎南RC)
2000～'01年度	大平 賢一	(名古屋昭和RC)
2001～'02年度	大平 賢一	(名古屋昭和RC)
2002～'03年度	榎原 正治	(半田RC)
2003～'04年度	榎原 正治	(半田RC)
2004～'05年度	水谷 金之	(名古屋北RC)
2005～'06年度	水谷 金之	(名古屋北RC)
2006～'07年度	水谷 金之	(名古屋北RC)
2007～'08年度	籠橋 美久	(名古屋中RC)

■委員会概要

当委員会は、地区国際奉仕委員会の小委員会として活動しているが、国際奉仕委員会の中でも中心的な委員会で、海外との窓口的な役割を担い、援助を必要としている国の生活の質を高め、“世界の平和”を目的とした奉仕活動を行っている。

また、各クラブの国際奉仕委員会活動の推進、取りまとめ、プロジェクトの提供、相談などを積極的に行っている。

■該当期間の主な活動

当委員会の活動をご紹介する。

まずは、世界社会奉仕委員会(WCS)活動の目的は、次の通りである。

1. 援助を必要としている国の民の生活の質を高める。
2. 異なる国のRCと地区が協力して、プロジェクトの遂行を奨励する。
3. 援助を必要とするプロジェクト、援助を提供したいとの申し出についての情報交換の機会を提供する。
4. 成功談をほかのロータリアンに伝える。
5. 国際理解、親善、平和を育成する。

このような目的を掲げ、各クラブに対してプロジェクトの提供、推進、援助などを行ってきた。

1994～'95年度に始まったフィリピン第3800地区に対する愛知奨学基金(拠出金額1,520万円)の創設、また翌年からは同第3810地区(拠出金額980万円)、タイ第3360地区(拠出金額1,120万円)への愛知奨学基金を創設し、以来、各地区で毎年70～90名ほどの奨学生に対し、愛知奨学金の贈呈を継続しており、今年度で10年になる。

また、当地区のWCS活動の過去10年間を振り返ると、東南アジアを中心に医療支援、教育支援、生活水の確保、飢餓の救済など活発な援助を行い、成果を得てきた。

このほか、母国で十分な医療的治療を受けることのできない、紛争や危機的状況に直面した子どもたちに援助を提供することを目的とした“ドイツ国際平和村”への支援、また、生活水の中にヒ素が混入し、飲料水としての確保が難しいバングラデシュへの、雨水貯水施設建設の支援などを行ってきた。

このようなプロジェクトを推進し、多くの人々より感謝されている。

近年では、社会主义国(ラオス、ベトナム、ミャンマーなど)への援助が少しずつ増え、特に、ラオスにおいては、タイ国チェンマイ地区(第3360地区)との共同援助として、貧困農村地区への支援として、2005～'06年度、2006～'07年度、

2007～'08年度にそれぞれ1校ずつ小学校を建設し、多くの子どもたちに快適な環境下での教育の場を提供してきた。

このように、当地区も多方面にわたり活動しているが、特に、地区委員会としてのプロジェクトは、識字率の向上を重点的に推進してきた。

今後は、今までより広い視点に立ったプロジェクトも検討し、ロータリアン一人ひとりにご理解、ご協力をいただけるようなプロジェクトを提供していきたいと考えている。

最近のWCS活動の取り組みは、積極的かつ価値あるプロジェクトを各クラブ独自にて実施する傾向にあり、当委員会としてもますますクラブ単位のプロジェクトの推進が図られるように協力いたします所存である。

このように、当地区のWCS活動は質の良い価値あるプロジェクトが多くなりつつある。しかしながら、世界にはまだまだ援助を必要としている人々がたくさんいる。これらの人々に手を差し伸べることができる団体が、ロータリーではないだろうか。

ロータリアン一人ひとりのご理解とご協力があつてこそ価値ある奉仕活動が可能となり、世界社会奉仕活動の“静かなる革命”が大きく生じることを願い、当委員会の地区史におけるご報告とさせていただく。

新世代委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	坂本 康信	(名古屋RC)
1999～'00年度	坂本 康信	(名古屋RC)
2000～'01年度	鶴田 欣也	(名古屋南RC)
2001～'02年度	保浦 文夫	(名古屋清須RC)
2002～'03年度	保浦 文夫	(名古屋清須RC)
2003～'04年度	藤井 忠	(名古屋清須RC)
2004～'05年度	藤井 忠	(名古屋清須RC)
2005～'06年度	藤井 忠	(名古屋清須RC)
2006～'07年度	加藤 康治	(一宮中央RC)
2007～'08年度	加藤 康治	(一宮中央RC)

■委員会概要

年齢30歳までの若い人すべてを含む新世代の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来を確かなものとするために新世代の生活力を高めること

によって、新世代に将来への準備をさせることである。すべてのクラブと地区は、新世代の基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するよう奨励されている。基本的ニーズとは、「健康、人間の価値、教育、自己開発」。

インターハクト・ローターアクト・RYLAの関連委員会をまとめ鼓吹し、一層の委員会充実を図る。



新世代国内研修団

■該当期間の主な活動

9月は新世代月間、通年第1回新世代委員長会議を同月第1火曜日に開催し、第2回の新世代委員長会議をRYLA講習開催日に開催。

2002年 RYLA開催に際し、ライラ友の会設立(案)

2003年 「ロータリーのできる教育奉仕プログラム」が提唱され、キャリア・スタート事業が始動、県教育課を通じ、「ロータリアン講師派遣、職場体験事業所」に対し、講師、職場体験事業所の登録を開始／新世代、インタークト、ロータークト、RYLA定款・細則・規則集発行／第1回委員長会議で「青少年の立場から」フォーラム開催

2004年 「キャリア・スタート」講師、職場体験事業所登録冊子発行／インタークトクラブの顧問先生との協力体制を推進

2005年 新世代委員長会議に新世代サミットを開催

2007年 新世代の安全と健全なる生活を守るために、保護しなければならない事態が起こった場合の管理マニアル「新世代保護委員会要項」の作成／2830地区(青森)との地区友好協定に基づき、新世代(地区ロータークト)で地区間友好(板柳宣言)を補佐、新世代(地区ロータークト)友好を締結／6月24日、豊田地区5クラブの提唱で豊田広域ロータークトクラブ誕生(地区内9つのアクトクラブ)

2008年2月 ロータークト全国研修会(仙台)が2010年3月に当地区で開催決定

■インタークト委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	荻本 鐵夫(一宮北RC)
1999～'00年度	荻本 鐵夫(一宮北RC)
2000～'01年度	荻本 鐵夫(一宮北RC)
2001～'02年度	岩瀬 康彦(名古屋RC)
2002～'03年度	岩瀬 康彦(名古屋RC)
2003～'04年度	堀井 武(小牧RC)
2004～'05年度	谷川 修(名古屋RC)
2005～'06年度	秋田 敬治(豊田RC)
2006～'07年度	沓名 令亨(安城RC)
2007～'08年度	加藤 明宏(名古屋RC)

■委員会概要

2760地区にある15のインタークトクラブ顧問の先生や22の提唱ロータリークラブの関連委員長と連携して、高校生に楽しく意義ある奉仕プロジェクトや国際交流の機会を提供している。また地域で次代を担う新世代のリーダーシップ育成に深く寄与している。

■該当期間の主な活動

1998年と2001年に2つのクラブが新しく生まれた。また海外研修は、場所こそシドニー、ブリスベン、ジーロングと変わったが、10日間の研修を安定した参加者数で続けている。年に1度、地区的インタークト、顧問の先生、関係するロータリアンが一堂に会する協議会も500名ほどの参加者を得ている。ホスト校も2005年から2順目になった。次期役員研修会、顧問・委員長会議などは、ロータリーとインタークトを繋ぐ重要な会として、毎年工夫をしながら実施している。個性あふれる各クラブの活動には目を見張るものがあるが、やはりキーワードは、「奉仕と国際」である。1つのクラブが他のクラブに参加を呼びかけて、広がりを見せる活動も出てきた。40名を超えるクラブ、メンバー減少に悩むクラブなどさまざまだが、2007年に作成した新入生獲得のためのリーフレットを活かして、新入会が倍増したクラブもある。



第20回 海外派遣研修(メルボルン郊外 ジーロングにて)



第20回 海外派遣研修(オベロン ハイスクールにて)

ローターアクト委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	石川 敬	(一宮中央RC)
1999～'00年度	青木 公貞	(豊橋RC)
2000～'01年度	青木 公貞	(豊橋RC)
2001～'02年度	近藤 雄亮	(名古屋瑞穂RC)
2002～'03年度	加藤 康治	(一宮中央RC)
2003～'04年度	加藤 康治	(一宮中央RC)
2004～'05年度	高木 博	(江南RC)
2005～'06年度	遠山 勇郎	(名古屋瑞穂RC)
2006～'07年度	服部 良男	(岡崎RC)
2007～'08年度	坪井 和義	(名古屋和合RC)

■委員会概要

ガバナーにより任命されたローターアクト委員により構成され、アクターの指導力研修を行うに際し、地区ローターアクト委員長と委員が補佐役を務め、18歳から30歳までの青年男女で構成されるローターアクターの個々の能力開発に当たって役立つ知識や技能を高めるようにサポートとともに、新世代の指導者を育成することを目的とする委員会である。

また、地区ローターアクト委員長は地区ローターアクト代表を指導し、標準ローターアクト定款・細則に則った活動を維持するように努めている。

■該当期間の主な活動

ローターアクト活動の目標は、親睦や奉仕活動を通じて、アクター個々人の専門技術・指導能力を高め、相手を尊重する観念（思いやりの気持ち）を

養いつつ、あらゆる有用な職業の道徳的水準および品位を保持し推進するとともに、次世代の新しいリーダーを育てるということである。そして、全世界の人々とより良い信頼関係を築くための機会をもつとも、活動の1つである。

その目標に向かって地区親睦、国内研修、海外研修、そして全国研修会にも参加して、各地区的アクターやロータリアンとの交流を深めるとともに情報交換を行い、さらにクラブ行事を通じて、青少年の育成を手助けする青少年活動を行っている。

2007年6月に豊田RC、豊田西RC、豊田東RC、豊田三好RC、豊田中RCの共同提唱により、豊田広域ローターアクトクラブを誕生させることができた。

2008年2月に仙台で開かれた第20回全国研修会において、当地区が2009～'10年度全国研修会をホストすることが決定している。

当委員会としては、より活発な支援ができるよう活動の充実を図っている。



地区親睦

RYLA委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	林 正彦	(尾西RC)
1999～'00年度	中山 信夫	(名古屋千種RC)
2000～'01年度	加藤 鈴幸	(豊橋RC)
2001～'02年度	横山 邦晴	(尾張旭RC)
2002～'03年度	松井 善則	(名古屋瑞穂RC)
2003～'04年度	金子 利夫	(知立RC)
2004～'05年度	岩瀬淳一郎	(豊川RC)
2005～'06年度	早川 佳教	(知多RC)
2006～'07年度	熊澤 勝則	(尾張旭RC)
2007～'08年度	坂田 憲治	(名古屋東山RC)

■委員会概要

RYLAとは、ロータリー青少年指導者養成プログラムの略称。愛知県では1993年以降、毎年

開催され、16回を数えた。RYLAの大きな特徴は、ロータリーに関係のないところから青少年を集め、ロータリークラブ会員がともに過ごし、指導者の養成とともに奉仕の精神を伝え、友愛を深めることである。

■該当期間の主な活動

1999年度

第7回「今、子ども達が危ない」

ホストRC：尾西

2000年度

第8回「地域社会とわたし」

ホストRC：名古屋千種

2001年度

第9回「21世紀は新世代のあなたが主役」

ホストRC：豊田西

2002年度

第10回「ネット社会の中の私たち」

ホストRC：尾張旭

2003年度

第11回「こわい親父とやさしいお母さん」

ホストRC：名古屋瑞穂

2004年度

第12回「青春の声を聞かせましょう」

ホストRC：知立

2005年度

第13回「見つめなおそうマナーと言葉」

ホストRC：豊川

2006年度

第14回「夢」

ホストRC：知多

2007年度

第15回「将来の日本」

ホストRC：尾張中央

2008年度

第16回「自立」-守・破・離-

ホストRC：名古屋東山



第16回 RYLAセミナー

ロータリー財団委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	矢島 茂（名古屋守山RC）
1999～'00年度	矢島 茂（名古屋守山RC）
2000～'01年度	石川 敬（一宮中央RC）
2001～'02年度	石川 敬（名古屋名駅RC）
2002～'03年度	石川 敬（名古屋名駅RC）
2003～'04年度	鈴木 孝則（あまRC）
2004～'05年度	鈴木 孝則（あまRC）
2005～'06年度	鈴木 孝則（あまRC）
2006～'07年度	深谷 友尋（名古屋みなとRC）
2007～'08年度	深谷 友尋（名古屋みなとRC）

■委員会概要

ロータリー財団の使命は「地域レベル全国レベル国際レベルの人道的、教育的、文化的交流プログラムを通じてロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、かつ世界理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援すること」と決定された。

■該当期間の主な活動

1998～'99年度

人道的分野支援に特化、27%（前年実績4%）拠出。117,100USドル指定寄付：災害救援（バングラデシュ577万円、ミッチャー台風533万円）、アフリカへのポリオ一斉投与（190万円）。

1999～'00年度

地区協議会、地区ロータリー財団セミナーを開

催。一層のご理解とご支援をお願いした。

2000～'01年度

新世紀を迎えるロータリーに対する社会各階層からのニーズも大きく変化しようとしている。

2001～'02年度

ロータリー財団の最大の悩みは、減少傾向を示す諸寄付金の現状に対する危機感である。ロータリアン全員が常に問題意識を持ち、魅力と成果あるロータリアン活動を展開することは、メンバーの充実感を高め、会員増強にも寄与する。

2002～'03年度

国際ロータリーが「ポリオ撲滅特別基金」を実施。

2003～'04年度

「ロータリー財団についての認識を深めるための啓蒙活動」に力点を置いた。あらゆる機会を捕らえて「寄付金の活用」について啓蒙した1年。

2004～'05年度

ロータリー創立100年の年。100周年の3大目標①ポリオ・プラスにおける前進、②会員増強、③財団支援、すなわち「創立100周年は財団重視の年」。

2005～'06年度

寄付金の使途を積極的に示し、いかに活用されているかをPRする。「毎年あなたも100ドルを『Every Rotarian, Every Year』(EREY)」を周知徹底した。

2006－'07年度

ロータリーの綱領の実践哲学、倫理運動の原点について研鑽を深め、実践のあり方を7小委員会すべてにおいて学んだ1年。全クラブにおいて年次寄付を達成。マッチング・グランドへの理解を4大奉仕委員会へ提唱した。

2007－'08年度

初めて財団月間（11月）中、81クラブすべてのクラブへロータリー財団委員による卓話を行う。地区財団に監査制度を導入。世界平和フェローシップ委員会新設。

年次寄付委員会

■歴代委員長

2004～'05年度	岡本 截紘（刈谷RC）
2005～'06年度	鈴木 哲（名古屋みなとRC）
2006～'07年度	吉川 正敏（岡崎RC）
2007～'08年度	吉川 正敏（岡崎RC）

■委員会概要

年次寄付は、ロータリー財団の3つの寄付の1つである。ほかに恒久基金・使途指定寄付がある。年次寄付とは、1人のロータリアンが毎年100USドルの寄付をするということが基本になり、年次寄付一人100USドル達成に向けて委員会活動をしている。

■該当期間の主な活動

年次寄付委員会が2760地区に設立されて5年

恒久基金委員会

■歴代委員長

2002～'03年度	本多 啓一（岡崎RC）
2003～'04年度	本多 啓一（岡崎RC）
2004～'05年度	渡辺 均（あまRC）
2005～'06年度	渡辺 均（あまRC）
2006～'07年度	朱宮 新治（犬山RC）
2007～'08年度	朱宮 新治（犬山RC）

■委員会概要

恒久基金は、国際ロータリー財団のさまざまなプログラムの需要の増加に対応するための収入源を提供することにより、より堅実なロータリー財団の活動ができるように創設されていることを、地区内のロータリアンに理解を求め、大口寄付者、ベネファクターの誕生を促している。

RI財団功労賞

1999～'00年度	矢島 茂（名古屋守山）
2000～'01年度	浅野 彰（名古屋大須RC）
2001～'02年度	石川 敬（名古屋大須RC）
2002～'03年度	中北 智久（名古屋RC）
2003～'04年度	鈴木 薫（豊橋東RC）
2005～'06年度	尾上 昇（名古屋大須RC）
2006～'07年度	鈴木 孝則（あまRC）

2006年4月、ロータリー・センター平和推進地区として表彰される。

目となる。

初年度は、刈谷ロータークラブ岡本戯紘委員長、2年目は、名古屋みなとロータリークラブ鈴木哲委員長が、年次寄付額推進にご尽力くださり成果をあげられた。3、4、5年目は、委員長・吉川正敏のもと8名の委員会組織で1年間の活動を行ってきた。年次寄付委員会を年4回開催し、委員8名で知恵を出し合って活動の方向を討議している。その中で、当地区の財団の活動を通して「毎年あなたも100ドルを」のスローガンを、ビジュアル化した分かりやすいパンフレットを本年度に8,000部作成。11月の財団月間では、81クラブへ卓話に伺い、パンフレットを通じて寄付をご理解していただく。

■該当期間の主な活動

地区財団委員会では、地区内で毎年1名の大口寄付者、各クラブ1名のベネファクター誕生という目標を掲げて、各クラブに理解と協力を求めている。

最近の大口寄付者とベネファクターの誕生は下記の通りである。

年度	大口寄付者	ベネファクター
	当年度／累計	当年度／累計
2001/2002	1／1	31／458
2002/2003	3／7	38／496
2003/2004	2／9	48／549
2004/2005	2／11	59／603
2005/2006	8／19	76／679
2006/2007	4／23	77／756
2007/2008*	3／26	66／822

* 2008年5月31日現在

■ ポリオプラス委員会

■歴代委員長

- 1998～'99年度 酒井 孝（一宮RC）
1999～'00年度 古川 善次郎（名古屋東RC）
2000～'01年度 榊原 克孝（半田南RC）
2001～'02年度 近藤 和夫（一宮RC）
2002～'03年度 松野 一彦（名古屋東山RC）
2003～'04年度 山内 登（尾西RC）
2004～'05年度 山内 登（尾西RC）
2005～'06年度 山内 登（尾西RC）
2006～'07年度 磯部 茂（一宮RC）
2007～'08年度 近藤 収（名古屋東山RC）

■委員会概要

世界のポリオ撲滅に協力し、当地区のロータリアンに募金活動をお願いしてきた。当委員会としても、歴代の委員長・委員の皆様にも緩みない努力をもって携わってきた。今、世界は、ポリオ撲滅まであと4カ国というところまで迫り、今後もポリオ撲滅活動にまい進いたす所存である。

■該当期間の主な活動

1995年規定審議会において、ポリオ・プラスの目標に西暦2000年までに世界からポリオを一掃し、その後、2005年までにポリオの撲滅を証明することが採択された。これをきっかけに、2002年4月より募金キャンペーンがスタートした。

ポリオ撲滅運動の当地区における対応としては、2002年度から2005年度に至る3カ年で、ロータリーメンバー1人当たり、50USドルの寄付をお願いした。

しかしながら、RIが2005年（RI創立100周年）にポリオ完全撲滅を宣言する予定であったにもかかわらず、残念ながら達成できていないのが現状だ。

その後、2007年11月に、ゲイツ財団より1億USドルの補助金寄付を受け、ロータリーとしても、今後3年間でこれと同額の寄付金を集めることを約束して、新ポリオ・プラス募金活動がスタートした。

■ 補助金委員会

■歴代委員長

- 2003～'04年度 鈴木 孝則（あまRC）
2004～'05年度 尾上 昇（名古屋大須RC）
2005～'06年度 平岩 慎次（尾張中央RC）
2006～'07年度 高山 光雄（名古屋空港RC）
2007～'08年度 高山 光雄（名古屋空港RC）

■委員会概要

地区補助金は、2003年～'04年度からロータリー財団に設けられた新しい制度である。当地区には毎年約5万USドルが配分される。採用プロジェクトは、各分区にくまなく配分し、有効に活用したいと思っている。いまだ未申請のクラブの応募を期待している。

■該当期間の主な活動

補助金の対象となるプロジェクトは、地域ニーズを把握し地域振興や恵まれない人々に役立ち、ロータリークラブおよびロータリアンが積極的かつ主体的に関わっている人道的事業である。単なる寄付や飲食費は対象とならない。昨年度の決定プロジェクトは次の通りである。

- 1～4. 熱田神宮境内などへAEDの寄贈と普及啓蒙活動（名古屋南RC、名古屋東南RC、名古屋瑞穂RC、名古屋名南RC）

5. 環境イラスト展（江南RC）

6. 障害者とボランティア 心のふれあい
(名古屋守山RC)

7. 農村舞台「石野歌舞伎保存会」（豊田西RC）

8. 安城の環境首都づくり（安城RC）

9. 養護施設の生徒と地引網漁体験
(名古屋北RC)

10. 親も子も一日アーティスト（愛知長久手RC）

11. 人道に関する国際会議（小牧RC）

12. 台湾童子軍交流事業（犬山RC）

13. 青少年健全育成と地域活性化
(名古屋大須RC)

14. 苗木配布（尾張旭RC）

15. ひいらぎ養護学校ふれあいコンサート
(半田RC)

16. KIRARA化学実験教室

(西尾KIRARA RC)

17. 防犯防災放送局 in 濑戸市役所（瀬戸RC）

18. 青少年のためのレンガアート体験

(名古屋空港RC)

19. 欽式少年野球大会（豊田東RC）

■財団奨学委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	大沢 勝	(名古屋東南RC)
1999～'00年度	浅野 彰	(名古屋大須RC)
2000～'01年度	浅野 彰	(名古屋大須RC)
2001～'02年度	中北 智久	(名古屋RC)
2002～'03年度	中北 智久	(名古屋RC)
2003～'04年度	石田 正城	(名古屋北RC)
2004～'05年度	石田 正城	(名古屋北RC)
2005～'06年度	川辺 清次	(名古屋名南RC)
2006～'07年度	川辺 清次	(名古屋名南RC)
2007～'08年度	ミカエル カルマノ	(名古屋東RC)

■委員会概要

ロータリー財団奨学生の目的は、優れた才能をもつ男女を「親善使節」として他国の教育機関で勉強させることによって、相異なる国民間の理解と友好関係の増進に寄与することにある。

■該当期間の主な活動

奨学委員会の主な活動は、地区の各クラブに推薦していただいた候補者を面接などにより選別すること、および海外のクラブから派遣されている奨学生の受け入れに立ち会うことである。海外からの受け入れはこの10年で候補者は1人しかいなかつたが、派遣は毎年続けてきた。

候補者のニーズに合う形で、3種類の国際親善奨学生（9ヶ月の1学年度、2年のマルチ・イヤー、3ヶ月あるいは6ヶ月の文化研修）を提供しており、最近は奨学生の金額、そして合格に必要な語学能力の基準ともに少しづつ上がってきてている。3年前から志願者の減少が目立つようになったので、国際ロータリーの魅力をもっとアピールすることが課題となっている。

■研究グループ交換（GSE）委員会

■歴代委員長

1998～'99年度	松前 憲典	(一宮中央RC)
1999～'00年度	山田 達	(半田RC)
2000～'01年度	石田 弘幸	(小牧RC)
2001～'02年度	深谷 友尋	(名古屋みなとRC)
2002～'03年度	深谷 友尋	(名古屋みなとRC)
2003～'04年度	矢形 修己	(名古屋北RC)
2004～'05年度	矢形 修己	(名古屋北RC)
2005～'06年度	矢形 修己	(名古屋北RC)
2006～'07年度	矢形 修己	(名古屋北RC)
2007～'08年度	矢形 修己	(名古屋北RC)

■委員会概要

社会人（25～40歳）4名とロータリアン1名が4～6週間、他国で同じ職業分野の参加活動や、勉強、ホスト地区でのクラブ例会出席を通して、歴史や文化を学ぶことにより、異文化経験、ホストファミリーや地域社会の人々との親睦を深め、友好関係を高める重要な国際交流プログラムである。

■該当期間の主な活動

当地区GSEは'97年度（犬飼ガバナー年度）R ID 4430（ブラジル・サンパウロ）から復活、「99年度（野村ガバナー年度）R ID 6600（アメリカ・オハイオ州北西部）、「00年度（福田ガバナー年度）R ID 2320（スウェーデン北部）、「01年度（太田ガバナー年度）R ID 3750（韓国・京畿道）、「02

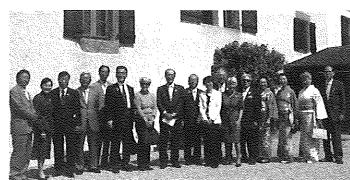
年度（岡部ガバナー年度）派遣、「03年度（豊島ガバナー年度）、受入 R ID 9520（南オーストラリア・アデレード）、「05年度（大島ガバナー・高橋ガバナー年度）R ID 5370（カナダ・アルバータ州）、「06年度（斎藤ガバナー年度）R ID 6170（アメリカ・アーカンソー州）、「07年度（江崎ガバナー年度）R ID 1780（フランス・ローヌ・アルプ・モンブラン県）と実施してきた。

成果として派遣では、国際的な視点を強化し、異文化や他の事業に携わっている人々との接触を通して、偏見にとらわれない考え方ができるようになり、外国の制度、文化、事業の習慣などについて、広範囲にわたる研修の成果が貴重な資産となる。また、地域社会・国際社会における企業、社員のあり方など再認識の場を提供してきた。

受け入れでは、ロータリアンまたその家族に国際交流の場所を提供してきた。

教育、文化の違い、異なる生活様式、社会経済環境、例会、企業訪問といったさまざまな機会を通じて、素晴らしい経験

を重ねること
ができるプロ
グラムになっ
てきた。



日本からのGSEチーム応援隊（R ID 1780、アルドDG宅）

■財団学友委員会

■歴代委員長

- 1998～'99年度 白井 通義（岡崎RC）
1999～'00年度 粟津 良一（碧南RC）
2000～'01年度 尾関 和成（名古屋和合RC）
2001～'02年度 鈴木 薫（豊橋東RC）
2002～'03年度 鈴木 薫（豊橋東RC）
2003～'04年度 藤田 守彦（名古屋西南RC）
2004～'05年度 藤田 守彦（名古屋西南RC）
2005～'06年度 藤田 守彦（名古屋西南RC）
2006～'07年度 柴田 憲一（豊橋東RC）
2007～'08年度 大嶽 岩雄（安城RC）

■委員会概要

ロータリー財団奨学生、研究グループ交換（GSE）を終了したメンバーを中心に構成された、財団学友会のサポート的な活動と、新奨学生に対して海外留学がスムーズに行えるように「ガイダンス」「オリエンテーション」「壮行会」を開催し、先輩諸氏のアドバイスを受ける機会を提供する。

■該当期間の主な活動

財団奨学委員会によって選考された新奨学生（5月頃）に対して8月頃に「ガイダンス」を、翌年の2月頃に「オリエンテーション」、5月頃に「学友会の総会および奨学生への壮行会」といった3つの行事を過去10年間継続して行ってきた。2004～'05年度には学友会による「音楽チーム」が結成され「総会および壮行会」時に演奏および独唱をしていただき、会場から盛んな拍手が送られた。2005～'06年度の地区大会では、財団学友会「音楽チーム」が参加され、大会に花を添えることができた。2006～'07年度には学友会主催による忘年会が開催され、学友会の皆様と我々ロータリアンとの交流の輪も広がった。今年度2008年5月25日、「学友会総会および奨学生壮行会」では財団学友会「音楽チーム」により総勢31名でJ・S・バッハのカンタータを1時間演奏していただき、参加者全員が素晴らしい音楽に満足された。

■ロータリー世界平和フェローシップ委員会

■初代委員長

- 2007～'08年度 深谷 友尋（名古屋みなとRC）

■委員会概要

世界の平和および紛争の分野における、国際問題研究のためのロータリー・センターは、平和や紛争解決といった理念に献身する個人に、ロータリー・センター提携大学の7校において、国際研究、維持可能な開発、平和研究、紛争解決に関する修士課程で研究する機会を提供するものである。ロータリー財団とこれらの大学の提携を通じて、毎年、世界競争制に基づき、ロータリー世界平和フェローシップがロータリー・センターでの研究を目的として提供される。世界平和フェローは、生涯、平和、紛争解決を維持する指導者となるよう期待される。

現在、ロータリー・センターの学友は、国連、世界銀行、国際移住機関、米州機構、各国政府機関、2国間または国際非政府組織やコンサルティング会社などで活躍している。

当地区では江崎ガバナーの指導のもとに、新しい時代のニーズに応え、新たな新プログラムを立ち上げ、学友の資格者を広く募集している。是非

各クラブよりのご推薦をお願いしたい。

■該当期間の主な活動

2007～'08年度創設。あらゆる機会を捕らえて啓蒙した1年。地区より1名を申請。

2000～'01年度より、毎年25,000 USドルのDDFより、世界平和フェローシップ・プログラムへ寄贈。

2002年、1期生と2期生の平和フェローのために、2年間で50,000 USドルのDDFを寄贈し、パキスタン地区となる。

2005年2月、世界平和奨学生から世界平和フェローシップと改正。

2006年4月、ロータリー・センター平和推進地区としてRIより表彰される。



ロータリー・センターの学友

米山奨学会員会//

■米山奨学会理事

1998~'08年度 加納 泉(名古屋中RC)

■米山奨学会評議員

1990~'93年度 加納 泉(名古屋中RC)

■歴代委員長

1998~'99年度	加藤 駿也(半田RC)
1999~'00年度	藤本 博之(名古屋西RC)
2000~'01年度	藤本 博之(名古屋西RC)
2001~'02年度	高橋 法昇(名古屋名北RC)
2002~'03年度	藤本 博之(名古屋西RC)
2003~'04年度	加藤 知成(東知多RC)
2004~'05年度	鈴木 茂久(豊橋北RC)
2005~'06年度	小山 憲介(名古屋名南RC)
2006~'07年度	小山 憲介(名古屋名南RC)
2007~'08年度	大西 弘高(名古屋東南RC)

■委員会概要

ロータリー米山記念奨学会は、日本全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学生を支給している。この奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家・米山梅吉氏の功績を記念して発足した。これまでに109カ国からの、1万3,902人の奨学生を支援し、規模と実績ともに民間で最大の留学生奨学団体となっている。

目的は「優秀な留学生を支援し、世界平和の創造と維持に貢献することである。

■該当期間の主な活動

1998年10月25日 米山奨学生見学会(米山梅吉記念館)

12月23日 米山奨学生と学友会との合同クリスマス会(プチヴェール名古屋)

1999年11月6日 米山奨学生・学友懇親会(バーベキュー大会)(愛知牧場)

12月23日 米山奨学生・学友会合同忘年会(プチヴェール名古屋)

2000年6月3日 米山奨学生・学友会学術研修会(ボストン美術館)

10月7日 米山奨学生・学友懇親会(クリンビル工場見学会)(クリンビル株式会社名古屋工場)

12月24日 米山奨学生・学友会合同忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2001年6月2日 米山奨学生・学友会学術研修会(徳川美術館)

10月6日 米山奨学生・学友会合同見学会(産業技術記念館見学)

12月23日 米山奨学生・学友会合同忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2002年10月5日 米山奨学生・学友会合同見学会(味の館)

12月23日 米山奨学生・学友会合同忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2003年5月31日 米山奨学生・学友会合同企業見学会(ノリタケの森)

12月23日 米山奨学生・学友会合同忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2004年5月29日 米山奨学生・学友会学術研修会(名古屋能楽堂)

12月25日 米山奨学生・学友会合同忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2005年5月28日 米山奨学生・学友会合同学術研修会(大本山永平寺 名古屋別院)

8月28日 愛・地球博 米山デー(愛・地球博 ロータリー館)

10月15日 米山奨学生・学友会合同学術研修会(大須観音)

12月25日 米山奨学生・学友会合同忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2006年12月24日 米山奨学生・学友会忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2007年5月26日 米山奨学生・学友会合同学術研修会(愛知県陶磁資料館)

9月24日 米山学友会総会及びトヨタ自動車工場見学会(トヨタ自動車工場)

12月22日 米山奨学生・学友会合同忘年会(ホテルキャッスルプラザ)

2008年5月24日 米山奨学生・学友会合同研修会(名古屋港)

「愛・地球博 米山デー」

2005年は、3月25日から9月25日まで半年間、愛知県(瀬戸市、長久手町、豊田市)で国際博覧会が開催され、ロータリーでも「ロータリー館」

を開設した。このロータリー館で、2005年8月28日（日）に財団法人ロータリー米山記念奨学会と国際ロータリー2760地区の共同開催による「米山デー」を開催する運びとなった。

米山記念奨学会の島津理事長夫妻、宮崎事務局長をはじめ、本部からも多数出席され、2760地区からは高橋ガバナー夫妻はじめ歴代パストガバナーが参会し、にぎやかな1日となった。

2760地区の米山奨学会委員会では、鈴木茂久前委員長を「米山デー実行委員長」として、当日の準備から開催運営までを担当した。

米山奨学生の皆さん、学友とその家族、カウンセラーのロータリアン、そして当日国際博覧会を見学にきたロータリアンの方々で1日中にぎわい、昼の宴会と午後の宴会時には、200人を超す盛会となり、行き届いたもてなしができないほどだった。

IT委員会//

■歴代委員長

2001～'02年度	浅野 彰	(名古屋大須RC)
2002～'03年度	浅野 彰	(名古屋大須RC)
2003～'04年度	浅野 彰	(名古屋大須RC)
2004～'05年度	坂本 晃	(名古屋名南RC)
2005～'06年度	坂本 晃	(名古屋名南RC)
2006～'07年度	坂本 晃	(名古屋名南RC)
2007～'08年度	坂本 晃	(名古屋名南RC)

■委員会概要

社会のIT化はますます進んでいる。社会奉仕の団体である我々ロータリークラブも、社会のIT化に歩調を合わせてIT化を進めていく必要がある。

私たちIT委員会は、第2760地区のIT化を促進し、ロータリー活動を拡充するというビジョンを持って行動している。具体的には、①地区のホームページの管理運営、②各クラブのIT担当者（CICO）との情報交換、③地区大会におけるインターネットカフェの主催、④クラブ例会におけるITに関する卓話などである。

■該当期間の主な活動

2001～'02年度のRI会長フランクJ.デブリン氏が、ロータリークラブのIT化を呼び掛けられた。当地区はこれに応えて、地区のIT担当者「DICO（District Internet Communication Officer）」を設置し、インターネット委員会（現在のIT委員会）を開設した。初代委員長の浅野氏は、第2760地区のDICOも兼務された。

委員会設立初年度から、当地区のホームページを開設した。このホームページでは、当地区のロータリー活動の広報と、地区内クラブの紹介、全国のロータリー関連ホームページへのリンクなどが掲載された。現在は、ガバナーのホームページと合体して、より密度の高いロータリー情報を発

信している。

当委員会が最も熱心に活動したのが各クラブのIT担当者との交流、すなわちCICO会議である。CICO会議には、分区会議と地区全体会議とがあった。分区のCICO会議においては、分区ごとに選出された委員がリーダーシップをとり、各クラブのCICOと当委員会が膝を突き合わせてIT化の情報交換をしてきた。この分区会議で私たち委員会が感じたことがデジタルデバイド、すなわちクラブ間のIT化に対する温度差である。ITを活用してクラブ活動を効率的に推進しているクラブと、そうでないクラブとに大きな格差があることである。この格差是正のために、地区全体会議を開催した。IT化を進めているクラブからの発表やホームページコンテストなどを内容とした2007年の全体会議には、定員100名を超えるロータリアン、事務局員が参加してくれた。これらのCICO会議の積み重ねが、地区内クラブのホームページ開設率8割に結びついたのだと思う。

当委員会は、2007～'08年度地区大会においてインターネットカフェを開催した。地区大会2日間にわたって実施されたインターネットカフェは、10数台のパソコンが空ぐのを待つ人がでるほどの盛況ぶりであった。

2008～'09年度から「IT委員会」という名称はなくなり、「総務委員会」として生まれ変わる。今までの皆様のご協力に感謝している。



2007～'08年度地区大会におけるインターネットカフェの様子

■ R JW地区委員 2005~'07年度委員長 浅野 彰 (名古屋大須RC)

■R JW地区委員を振り返って

R JW (ROTARY JAPAN WEB) www.rotary.or.jp は、1990年頃、いまだITの揺らん期に、日本のロータリー会員に、日本語での情報提供の必要を痛感した有志により、創始されたものである。

当時、RIのウェブは英文のみの提供であった。デブリン会長年度(2000~'01)、各地区にDICO (District Internet Communication Officer) を任命し、RIから地区への正確で迅速な、情報伝達の手段としてのITの普及を図った。

我国ではその必要性を痛感しC I C O (Club Internet Communication Officer) を置くことによりITの浸透が進められた。R JWとDICOとの協働により、日本語の公式サイトとして、資金の裏付けがないままに、運営された。その後印刷とウェブによる情報提供の統合調整を図り、「雑誌・ウェブ・アーカイブ」機能を統一し適正な管理をすべくR I C J (Rotary Information Center Japan) が設立(2005.2.24)されたが、初期の目的を達成することなく、2007年、膨大な資金を擁するロータリー雑誌友委員会に包含された。

危機管理委員会(新世代保護委員会) //

■歴代委員長

2006~'07年度 片山 主水 (名古屋東南RC)

2007~'08年度 神野 武郎 (豊橋東RC)

■委員会概要

当委員会は、RIから新世代育成プログラムにおける虐待とハラスメント防止のため設立を要請され、全国34地区で統一した危機管理体制を作りこみ、防止に対する啓蒙活動と、万が一事案が発生してしまったときに対処する報告システム、新世代保護システムを管理推進していく委員会である。この委員会は2006年度に設立され、ガバナーから特命を受けたガバナー補佐を委員長として、新世代育成に関係する全委員会、すなわち国際奉仕委員会(青少年交換委員会)、インターフト、ロータリアクト、RYLA、新世代、米山財団の各委員長および、広報委員長が所属し、ほかに外部有識者(非ロータリアン委員)も2名以上所属し、かつメンバーの中に、女性、医師、司法関係者、メディア関係者(あるいはこれに精通するもの)も含まれていなければならないという委員会組織である。また、全国34地区を一括としてNPO法人『国際ロータリー日本青少年交換委員会』を2007年7月に立ち上げ、賠償責任保険にも加入し、万が一の事態に対処している。

この危機管理委員会設立の経緯は、2005年に大阪でおこなわれた世界大会での青少年交換役員プレコンベンションで、過去にオーストラリアから欧州へ派遣された女子学生が性的虐待にあったという事例が発表され、それに基づき過去に遡ってRIが調査した結果、多くはないがハラスメントおよび虐待の事例が見つかったこと、それによってガバナー経験者も含めて訴追され有罪判決

も下されている例が存在していることが確認され、それに対応し、まず第1に『青少年交換学生およびそれに準ずるロータリープログラム参加者』を守ることを目的とし、副次的に各新世代育成プログラムに参加する『ボランティア』を守ることを目的としている。ちなみに、ボランティアとは新世代育成関連事業に関与するすべてのロータリアンを含めての、成人の関係者ということである。

危機委員会の責務は、このロータリーの新世代育成プログラムに参加した学生を守る仕組みを広くロータリークラブおよびロータリアン全員に周知徹底させ、さらに学生たちを守る方策・仕組みをレベルアップさせていくことであると考える。併せて危機管理という側面から、ロータリー新世代育成プログラムに参加する学生が遭遇するかもしれない交通事故・自然災害などにも対応する仕組みを作りこんでいる。

新世代育成プログラムは、数あるロータリープログラムの中でもっとも有意義で重要なものであるという認識を共有し、この委員会をともに育てていただきたいと考えている。

■該当期間の主な活動

奉仕の精神から生まれているロータリーの各奉仕活動、とりわけ新世代育成プログラムは友情と善意を前提とした素晴らしいプログラムであると確信しているが、特に青少年交換プログラムはロータリーが全面保証をするという、もっとも安全で有意義な国際親善・国際理解プログラムであるといえども、16歳から18歳までの高校生が1人で知らない国で1年を過ごすというプログラムである。もし、自分の子どもを外国に1年派遣するという発想に立てば、派遣先の国にそのような学生

を守る仕組みがあるかどうかで、安心感が違ってくるのも事実であると考える。ホストファミリーの選考基準や、ロータリアンも含めてのボランティアの選考基準・遵守事項などが細かく規定され、かつ、万が一の対応方法も規定されている。そこには、自然災害や交通事故に対応する仕組みも含まれている。まだ発足2年で100%完全な活動をしているわけではない。危機管理委員が各ロータリ

ークラブに対し、委員会の目的と意義をお互いに確認し合いながら、第1の目的である新世代学生をいろいろな危機からいかに守るかを主眼に、意見交換し、要望やアイデアを委員会規約に盛り込みながら、さらに実りある奉仕活動が展開できる環境づくりと意識をつくり上げていきたいと考えている。

地区大会企画委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	内藤 明人（名古屋西RC）	2003～'04年度	豊島 徳三（一宮北RC）
1999～'00年度	野村 重彦（刈谷RC）	2004～'05年度	大島 宏彦（名古屋RC）
2000～'01年度	福田 清成（江南RC）	2005～'06年度	高橋 治朗（名古屋西RC）
2001～'02年度	太田 賢太郎（岡崎RC）	2006～'07年度	斎藤 直美（豊田RC）
2002～'03年度	岡部 快圓（名古屋大須RC）	2007～'08年度	江崎 柳節（小牧RC）

ガバナー事務所分室運営委員会//

■歴代委員長

1998～'99年度	岩間 俊夫（名古屋西RC）	2003～'04年度	瀧 義孝（一宮北RC）
1999～'00年度	内藤 耕造（刈谷RC）	2004～'05年度	安藤 重良（名古屋RC）
2000～'01年度	伊藤 鶴吉（江南RC）	2005～'06年度	川島 誠（名古屋西RC）
2001～'02年度	藤井 克己（岡崎RC）	2006～'07年度	藤井 伸三（豊田RC）
2002～'03年度	伊藤 宏（名古屋大須RC）	2007～'08年度	河村 嘉男（小牧RC）

ロータリーの友委員会//

■歴代地区委員

1998～'99年度	種村 桂介（名古屋栄RC）	2003～'04年度	松前 憲典（一宮中央RC）
1999～'00年度	羽田 育哉（刈谷RC）	2004～'05年度	松前 憲典（一宮中央RC）
2000～'01年度	岩井 良明（江南RC）	2005～'06年度	松前 憲典（一宮中央RC）
2001～'02年度	内藤 満里子（高浜RC）	2006～'07年度	松前 憲典（一宮中央RC）
2002～'03年度	杉本 英夫（名古屋大須RC）	2007～'08年度	藤井 伸三（豊田RC）

地区ローターアクト代表//

1998～'99年度	石田 雄三（岡崎RAC）	2003～'04年度	田中 孝一（名古屋みなとRAC）
1999～'00年度	樋口 慎一郎（名古屋名城RAC）	2004～'05年度	土田 和美（江南RAC）
2000～'01年度	佐々木 義宜（豊橋RAC）	2005～'06年度	江村 陽子（名古屋熱田RAC）
2001～'02年度	鈴木 善一（田原RAC）	2006～'07年度	稲垣 剛（岡崎RAC）
2002～'03年度	江崎 正和（一宮RAC）	2007～'08年度	藤 喬史（名古屋名城RAC）